

平成29年度 第1回 原子力土木委員会 議事録

1 日 時 平成29年6月6日(火) 13:30~17:40

2 場 所 土木学会 講堂

3 出席者(第2部出席者、敬称略、順不同)

- 委員 丸山委員長(長岡技術科学大学)、小長井副委員長(横浜国立大学)、
蛭沢副委員長(電力中央研究所)、江尻委員(大林組)、大野委員(四国電力)、
高田委員(東京大学)、高橋委員(日本原燃)、戸田代理(鹿島建設)、
佃委員(産業技術総合研究所)、土委員(清水建設)、仲村委員(中部電力)、
奈良委員(放送大学)、羽鳥代理(東北電力) 伴委員(電源開発)、藤本委員(神奈川大学)、
藤原(防災科学技術研究所)、
松浦委員(ダイヤコンサルタント)、山田委員(中国電力)、米山委員(京都大学)
- 幹事 松村幹事長(電力中央研究所)、中村委員兼幹事(日本大学)、松本委員兼幹事(東京電力)、
渡辺委員兼幹事(大成建設)、審幹事(関西電力)、中島幹事(電力中央研究所)、
東川幹事(中部電力)
- オブザーバー 青柳小委幹事、松尾小委副幹事長、松山小委幹事長
(以上、電力中央研究所)
- 土木学会 丸畑

4 議 題

第1部 公開講演会(13:30~15:20)

- 演 題 学会が原子力安全組織システムの防護の厚みに貢献するために
- 講演者 東京大学名誉教授 近藤俊介
- 参加者 約80名(委員を含む)

第2部 委員会(15:40~17:40)

- (1) 委員長挨拶
- (2) 前回議事案・委員名簿の確認
- (3) 2016年度報告と2017年度計画
- (4) 年間活動計画
- (5) 全国大会研究討論会企画
- (6) 小委員会活動報告と計画
 - ・国際規格研究小委員会
 - ・津波評価小委員会
 - ・地盤安定解析高度化小委員会
 - ・構造物耐震高度化小委員会
 - ・断層活動性小委員会
- (7) その他

5 配布資料(委員会)

- 資料1 委員会名簿
- 資料2 前回議事録(案)
- 資料3-1 2016年度報告と2017年度計画
- 資料3-2 2016年度活動度評価結果
- 資料3-3 学会外との連携

| | |
|-------|-----------------------|
| 資料4 | 原子力土木委員会平成29年度年間計画 |
| 資料5 | 全国大会研究討論会企画 |
| 資料6-1 | 国際規格研究小委員会報告 |
| 資料6-2 | 津波評価小委員会報告 |
| 資料6-3 | 地盤安定解析高度化小委員会報告 |
| 資料6-4 | 地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会報告 |
| 資料6-5 | 断層活動性評価の高度化小委員会報告 |

6 議事

(1) 委員長挨拶

丸山委員長から、今回の総会をもって委員長を退任するが、これまで委員長在任の4年間、委員、幹事の支えてもらったことに感謝するとの開会の挨拶があった。

(2) 前回議事録・委員名簿の確認

松村幹事長が資料1、資料2に基づき、「前回議事録」、「委員名簿」の確認を行い、了承された。また本年度総会后に全委員、全幹事が任期切れとなり、小長井副委員長が委員長に就任することが報告された。

(3) 2016年度報告と2017年度計画

(4) 年間活動計画

松村幹事長から、資料3-1、3-2、3-3に基づき「2016年度報告」と「2017年度計画」の説明、中島幹事から、資料4に基づきの「年間活動計画」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- Q e-learningで動画を流す場合、その動画を保存する必要があるが、保存サーバーの費用は誰が負担することになるのか？
- A 学会から要請があれば、その費用は学会が負担することになると考える。今後もその流れでe-learningによる情報発信を進めたい。
- C 学会の活動度に関する聞き取りで説明したところ非常に活発であると評価されたが、活動度評価について実際の活動を評価できる基準になっていないので、評価基準を変えて欲しいと昨年度にお願いしたが未だ変わっていない。基準を変えてもらうべく、今後、積極的に要請していきたい。(例えば委員長名のレター発出など)
- C 次期から与えられた予算の有効にあって、受託以外の活動も活発にして欲しい。

(5) 全国大会研究討論会企画

中村委員兼幹事から、資料5に基づき「全国大会研究討論会企画」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 近藤先生の肩書きを訂正しておいて欲しい(理事 → 理事長)
- C 原子力セッションへの投稿数がわずかながら減っているため、来年以降、投稿数を増やすように考えてもらいたい。その際、他学会会員からも投稿できるようなことも視野に入れて、進めて欲しい。

(6) 小委員会活動報告と計画

①国際規格研究小委員会

中村委員兼幹事から、資料6-1に基づき「国際規格研究小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C IAEAのドナー会議に高田委員が参加するのであれば、その旨を活動計画に記載して欲しい。

②津波評価小委員会

松山小委幹事長から、資料6-2に基づき「津波評価小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- Q この地すべり実験の目的は数値解析手法の確立と考えていいのか。
- A その通りである。複数の解析手法を適用して、それぞれの精度とその不確定性を把握することを目的としている。
- Q 今昔問わず、国内外に地すべり起因津波の事例はあるのでそのデータを用いた検証を行わないのか。
- A 山体崩壊による海面突入の津波(陸上地すべり)について代表的な事例として、1792年の有明海の津波(島原大変肥後迷惑)や1741年の渡島大島の津波があり、このデータは検証に可能な程度の痕跡記録があると考えられる。海底地すべりについては、日本周辺では陸上地すべりよりデータは少ないので、海外の事例データを参照することになる。
- Q 津波ハザードを評価するための津波版SSHAC(ハザード解析専門委員会)の実行を見据えた計画となっているのか。
- A 次年度以降の計画において、津波ハザード評価における専門家の知見取り込みについて取り組む予定であり、そこで検討の俎上になる予定である。

③地盤安定解析高度化小委員会

審幹事から、資料6-3に基づき「地盤安定解析高度化小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 活動機会を増やすためにWGの成果をWGごとに公開することを検討して欲しい。
- C postSMiRTについて河井委員が参加する予定なのでその旨を活動計画に記載すること、また土木学会が共催するのであれば参加人数の半数を委員会の行事参加者としてカウントできるので、確認の上、可能であればカウントしてもらいたい。

④構造物耐震高度化小委員会

松尾小委副幹事長から、資料6-4に基づき「地中構造物の耐震性能照査高度化小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- C 指針改訂に関して、丸善から出版されている鉄道設計基準も参照しておくとうい。
- C 外部から講師を招いて、鉄道設計基準について講演してもらうのも良いのではないかと。

⑤断層活動性小委員会

青柳小委幹事長から、資料6-5に基づき「断層活動性評価の高度化小委員会報告」の説明があった。主な質疑応答は以下のとおり。

- Q 断層見学会に参加した一般の方の反応は？
- A 参加した皆さん興味深そうだった。
- Q 一般の方への案内方法は？
- A 教育委員会を經由して小学校に案内した。
- C このような一般者が参加する活動をぜひアピールして欲しい。
- Q 事前に活断層が知られていなかった地点で調査して、断層に累積変位があることが分かったということだが、地震前にそのような調査地点を特定することができるのか？
- A 地震後に地形判読をしておいたところ、地表地震断層沿いに今回の変位に調和的な微地形の存在が認められた。ただし、これは断層の存在を知った上での再判読であり、この情報から事前に調査地点を特定することは困難だと思われる。一方で、原子力サイトの場合には、施設設置前に基盤に断層が確認できるので、その断層を対象に今回のような調査を行えば、活動性を評価できると思われる。
- Q 破碎部性状による活動性評価について、活断層と非活断層とでその性状に違いが出るメカニズムは解明されているのか？

- A まだ仮説レベルではあるが、見当はついている。次フェーズで岩石摩擦実験との比較を通じて、その検証に取り組みたいと考えている。

(7) その他

小長井次期委員長から新副委員長に中村委員兼幹事、蛭沢副委員長、新幹事長に松村幹事長、顧問に丸山委員長、また任期切れの委員、幹事については問題がなければ、そのまま再度、就任してもらいたいとの意向が示された。

丸山委員長から退任に当たって、委員長として原子力土木委員会がしっかりやっていることをアピールすることが非常に大切であると感じたので、今後もしっかりアピールして欲しいとの話があった。

松村幹事長から、次回委員会開催は、平成29年11月、12月ぐらいを予定しているとの説明があった。

以 上